

那珂市横堀 1502-1, TEL&FAX:029-298-5947, yokobori-y@city.naka.lg.jp

## 季節感と伝統を大切にしたい！～“秋”の行事特集号～

前号まで“スポーツの秋”を中心に、園や園児の様子をお伝えしてきました。

でも“〇〇の秋”ではなくても、秋ならではの“伝統的な行事”が、日本にそして世界にあります。私は、そんな伝統行事を、行事の意味も含め大切にしたいと思っています。

「学校からどんどん季節感が消えてくなくなあ…」学校に勤務した約40年間に、多くの季節的な行事が削られていきました。中学校は相変わらず、制服も体操服も夏服・冬服の2種類だし…

せっかく四季のある美しい日本に住んでるんだもの、それぞれの季節を楽しむ人に育てたい。と云うことで、今号では、園で行った、日本と欧米の“秋を味わう行事”を紹介します。

**☆お月見泥棒☆** 「子供は月からの使者。だから供え物を取って行っても、それはお月様が食べたこと。縁起が良いし、豊作祈願にもなる。」意味や起源は諸説あるようですが、古くから“中秋の名月”に行われてきた風習。今でも、南東北・北関東から九州・沖縄まで、農村部を中心に、日本各地で行われているそうです。実は、教員になるまでこの風習を知りませんでした。給食の時、「今日の泥棒、何時に集まる？」と相談していた子供達に真顔で説教し、大笑いされたことを懐かしく思い出しました。



## ☆ハロウィン☆ 「トリック・オア・トリート！（おもてなししないとイタズラするぞ!）」

ノックの音で職員室の戸を開けると、そこに可愛いゴースト達。イタズラされないように「トリート！」と答え、お菓子を渡すと、「ハッピーハロウィン！」と元気に手を振りながら去って行きました。



元々は、冬が近付いて植物が枯れ・虫がいなくなり・風邪が流行ったりするのを”甦った悪霊の仕業”と考えたケルト民族の行事。悪霊を家に入れないように、臭い物(ニンニク)や辛い物(トウガラシ)を出入りに置き、子供達は悪霊に変身して、かぶで作った提灯を持って、家々を回りお菓子をもらったそうです。

アメリカに渡り、かぶがカボチャのジャック・オウ・ランタンに変わっても、子供がとても楽しみにしている”子供のための行事”です。節分とお盆とお月見泥棒が一緒になった感じですね。



でも、今の日本では大人が大騒ぎする行事。今年も泥酔して救急車で運ばれたり、軽トラをひっくり返したり、道路標識にのぼったり…

だからあえて、園では本来の形でハロウィンを楽しみました。

**＜ちょっと自慢話＞** 休みを取っていたハロウィン前日。用があって5時頃幼稚園に来たら、**村田 T**と**平塚 T**とハロウィンの話になりました。この時点で全く計画は無く、上にも記した”今のハロウィンを残念に思う私の気持ち”と教諭の頃の取り組みを話し、帰宅しました。それが、翌朝「園長先生、子供達が職員室に来るので、このチョコ渡してください。」そして午前中”何かワイワイやっているなあ”と見ていたら、写真のとおり見事に悪霊に変身し、英語の決まり文句もバッチリ！今回も、我が職員を頼もしく・嬉しく感じました。